

松山まちづくり協議会安心安全部会（宮城県）

皆さん、こんにちは。宮城県大崎市松山から参りました、松山まちづくり協議会安心安全部会の佐々木と申します。もう一人、こちらに今日はアシスタントで来ております、同じ部会の角田です。よろしくお願いを申し上げます。



活動地域の紹介

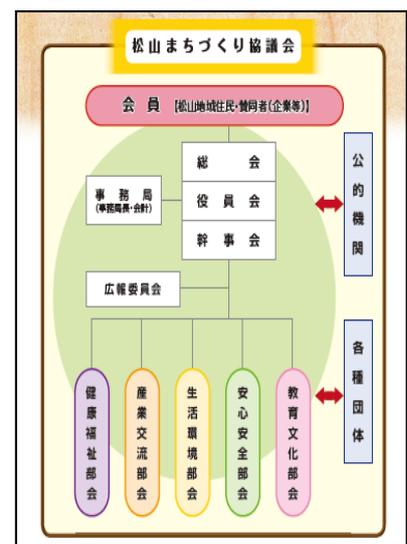
松山地域ですが、仙台から電車で東北本線を 40 分乗ってもらいますと、松山に着きます。人口は 6,610 人、世帯数として 2,179 世帯ございまして、面積は 30.1 平方キロメートルです。大崎市内で人口規模や面積が一番小さな地域です。地域の特産品は、農業の盛んな町ですから、お米が代表として挙げられるのではないかと思います。そのお米を使ったおいしい酒、一ノ蔵という酒造会社もございますし、あと豆を使った仙台味噌の工場もある所です。松山地域の風景ですが、これが松山を一望できるコスモス公園です。松山の花としてコスモスが秋には咲き乱れます。花と歴史の香る町として、小さな世帯ですが、これが幸いとして絆の強い地域だと思っております。



団体概要

次に、まちづくり協議会ですが、平成 18 年3月に1市6町が合併して宮城県大崎市が誕生しました。地域の課題解決に取り組む組織として、松山まちづくり協議会が発足して、図のように5つの部会、健康福祉、産業交流、生活環境、安心安全、教育文化、1つの広報委員会が誕生いたしました。この各部会で地域の課題解決に向けて活動しております。

協議会の理念ですが、人口規模や面積の一番小さな地域です。このことは住民相互の顔が見られて、これを生かしたまちづくり協議会の理念として「であい、ふれない、わかちあい、絆のつよい地域づくり、まつやま」としました。地域づくりは、個人・家族で解決できない問題は行政区で、行政区を超えた課題は地域全体で、地域全体で解決できない課題は、行政と協働で解決するという課題解決の推進役を担っております。



活動内容～子ども見守り隊

まず、1点目、子ども見守り隊です。平成 19 年度に発足いたしました。低学年の子どもの下校時、指

定場所で指定時刻に隊員を配置して、10分ないし15分程度見守るという活動ですが、地域の子どもは地域で守るとの合い言葉で交通事故防止、不審者からの危害防止に努めております。

しかし、指定時刻に子どもが来ないのが通常です。これは皆さんも覚えがあると思いますが、俗に言う道草を食うと言ってありますが、そんなことです。また、見守り地点の50メートルぐらい前で、車座になって動きません。迎えに行くと話を聞きますと、会議をしているということです。この会議は道端会議なのでしょうか。私もちょっとわかりませんが、15分程度の見守りが30分、40分になるときもございます。でも、我々隊員は、あと5分見ていれば悲惨な事故が防げたのかなという悔いだけは残したくないという思いで活動しております。子ども見守り隊の風景です。これまでに下校時における各種の事故は発生しておりません。発足当時の隊員は23名ほどでしたが、現在は40名ほどになっております。



活動内容～子ども・地域110番の家



次は、「子ども・地域110番の家」です。子どもを見守るだけでなく、有事の際の避難場所として、また駆け込みの場所として、のぼり旗の設置をお願いしております。この旗を掲げることによって、地域ぐるみで防犯活動に取り組んでいるという意思表示にもなりまして、防犯発生の抑止力に効果があるとの声も聞いております。のぼり旗の設置の家の数ですけれども、当初は160件でしたけれども、昨年で280件、今年は50件増の330件にしたいなと計画を立てております。

活動内容～子ども安全マップの作成

次は、子ども安全マップ作成です。子ども安全対策の事業として取り組みまして、子どもたちに地域の再発見をしていただいて、自分たちの住む地域に愛着を持っていただく取り組みです。子どもたちと親と一緒に地域を見て回りまして、危険場所のチェックを行う。このときの条件として、絶対に親の目で見た危険場所は言っではありません。子どもの目線で見た危険場所のチェックをすることです。そして、模造紙に地域の地図を書きまして、その地図に子どもたちの目線で見た危険場所などを書き写します。このときにデジタルカメラ等で撮った写真を貼り付けるのも一つのアイデアではないかと思っています。完成した子ども安全マップは地域の集会所等に貼っていただいて、子どもたちが集まったときの危険場所の再認識をする。また、この縮小版を各家庭に配りまして、家族で事故防止の話し合いをして、子どもたちに事故のない地域をつくる取組をしております。



活動内容～自主防災組織研修会

次に、自主防災組織研修会です。我々の協議会は、自主防災組織をコーディネートする役目を担っております。災害時に機能する自主防災組織の育成の手助けをしております。また、消防署署員による防災についての講話をいただきまして、活発な研修会になっております。

これも研修会での写真ですが、毛布と竹竿で簡易な担架作りの風景です。参加者は真剣に取り組んでおりました。

災害時井戸水協力の家のマップですが、このパネルは自主防災組織研修会の中で出てきたものですが、災害発生時に一番困ることは生活用水の確保が急務でありました。生活環境部会と連携を取りながら検討を重ねた結果、地域で使用している井戸水を使用する案が出てきました。そして、地域で使用できる井戸の調査と災害発生時に協力を得るという確認のもと、災害時井戸水協力の家のステッカーと水くみバケツを配布しております。この井戸水の場所は、後で出てきます災害時要援護者マップに表示しまして、有事の際にどこに使用できる井戸があるのかがわかるようになっております。この協力の家ですが、現在 230 戸になっております。昨年3月 11 日の悪魔のような東日本大震災のときに、このバケツが生活用水確保に大いに貢献したことを特に声を大きくして報告を申し上げます。



活動内容～災害時要援護者マップの作成

このマップは生活弱者を事前に把握して、有事の際に迅速に安否確認などの処置が取れるようにす



るためです。昨年の東日本大震災発生時は、被災弱者への安否確認がスムーズに行われたと報告を受けております。しかしながら、地図上に実名が記載されるということで、個人情報云々の話が出てきまして賛否両論でした。今後は各行政区で検証を行うとともに、使い勝手のよいものに工夫をする必要がありますので、研修会を開催するなどして、今後の災害時にはマップの機能が最大限活用されるように話し合いをしているところです。

東日本大震災時の被害状況であります。このパネルは一般家庭の家屋の倒壊状態です。このほかにも多数ありました。次の写真ですが、これも幹線道路が陥没しまして、約1年間通行不能となりまして、生活に大きな支障を来しております。



次の写真は東日本大震災後の活動ですが、直ちに地区防災対策本部を立ち上げて、これまでの研修等で学んだことを活用して、被災地の救護救援に、また救援物資等の配布などの活動が迅速に行われておりました。



東日本大震災

次に、昨年の3月11日の東日本大震災後の振り返りです。東日本大震災を体験してボランティア推進大会を開催いたしました。タイトルは「東日本大震災、あなたは何をしていましたか」という題です。講師を招きまして基調講演をいただいた後に、パネラーとして行政区長の代表、松山小学校の校長、ボランティア代表、行政を代表して保健福祉課より参加をいただきまして、それぞれの立場で大震災時に取り組んだこと、そして今後の課題などについて話し合いをしたところです。

今後の課題と展望

今後の課題と展望ですが、子ども見守り隊、先ほど出ましたが地域の子どもは地域で守るとの合い言葉なれども、自分の子どもを自分たちの家庭で守るという意識というか精神が少し欠けているのではないということもございます。それから「子ども・地域 110 番の家」ですが、のぼり旗の掲揚によって犯罪の抑止力に効果があるという声がありまして、さらに協力の家の増加に取り組むことしております。

子ども安全マップですが、このマップ作成後、どのように地域内で活用していくのか、子どもたちの安全のため、災害時要援護者マップもございましたが、その擦り合わせをどうするのか、これも今後の課題だと思っています。

それから、自主防災研修会ですが、東日本大震災発生時に各地区で避難場所の開設とか安否確認などの対応をしましたが、今後、災害が発生したとき、この間は午後3時ごろでしたけれども、夜間に出た場合を想定した避難訓練をどうするのかも検討課題だと思っています。

今後ですが、これまで述べました活動を継続させながら、今年は新たな活動として「向こう三軒両隣、安心安全な地域づくり運動」を展開します。高齢者独り暮らし世帯に対して、振り込め詐欺、高額商品の売り込みの防止、防犯・防災、交通安全の啓蒙などの声掛け運動を実施したいと思っています。この活動はポスターやチラシを作成して、関係諸団体と連携を取り、声掛け運動を展開したいと思っています。

最後ですが、安心安全部会は、これからも関係諸団体と連携を取りながら、安心して安全に暮らせる地域づくりに努力をする所存です。



質疑応答

●質問 「子ども地域・110 番の家」の承諾・承認を得るための交渉というのはどうやったのですか。

○回答 「子ども地域・110 番の家」は、地域内の各戸に協力の家の申込書を配りまして、先方から「私のうちも立てられますよ。」という意思表示をいただいて、そこに我々が旗を持って行き、「では、お願いします。」というふうにしました。しかし、それだけでは 280 件の旗は立ちませんでした。それで口コミでお願いしました。1つの地域に固まるのではなくバランスよく立てれば犯罪防止、その抑止力にもなるということをお願いをしました。

あと、実際の話として、隣近所でお茶飲みなどをしていますと、「これを買わないか。」と怪しい人が来た。「お宅には、来なかったですか。」と聞くと、「俺さ、来ないね。」と。来なかったうちは旗を立てていたという。これは実話です。こんな話も聞かされまして、やはり抑止力になっているのだろうと自信を深めております。

●質問 防災マップのサイクルというのは考えておられるのですか。町ですと、時々大きい建物が建って、そこを避難所に予定していると完全にアウトになってしまうのですが、3年とか5年サイクルにするとかという予定はあるのですか。

○回答 松山地域で何かあったときの避難所開設場所は決まっております。まずは、行政区の集会所

です。それから、町の福祉センターなり、学校内という場所なのですが、あとマップについては何年かに一週、毎年でも結構ですが、実情に合うように更新する必要があるなと思っています。

●質問 今回、要援護者に対するマップ作成が、東日本大震災に大変役だったということですが、困難な状況の中でどのようにして落ち着いて行動できたのか、また、しっかり行動するためにはどの辺りに気を配ったのか、教えてください。

○回答 まず、集会所に避難所を開設し、しばらくして、役員さん、それから高校生、大学生が手伝いに来てくれました。そして、我々が「どこのうちに行つて。」という安否確認を指示するときに、その独り暮らしが記してある要援護者マップが大いに役立ちました。普段から顔が見える者同士であったということ。あと地域を束ねる方がしっかり存在し、その方から明確なメッセージを伝えて、対応を取りなさいという指示を徹底するように配慮しました。